

頸動脈超音波検査

頸動脈は心臓から脳へ血液を送っている非常に重要な血管です。左右の頸動脈を超音波（エコー）で観察することにより、全身の血管の動脈硬化の程度を推定することができます。

検査方法

仰向けで寝た状態で枕をはずし、首の部分にゼリーを塗りプローブを当て見える範囲で頸動脈を観察します。左右合わせて10分程度で終了する簡単な検査です。超音波を使用して検査するため、被爆の心配はありません。

観察する項目

動脈硬化の有無

血管壁の厚さを計測し、動脈硬化の有無を調べます。

血管壁は内膜、中膜、外膜の3層からなっており、厚さは内膜、中膜を合わせた内中膜複合体厚（IMT）を指します。IMTの厚さは通常1mm未満で、1mmを超えると動脈硬化が示唆されます。

血管径

頸動脈の外膜間血管径を計測します。

加齢とともに拡張し、高血圧や大動脈瘤を有する場合に拡張します。

プラークの有無

IMTの肥厚以外にも、血管壁に限局性の肥厚がみられる場合があります、これをプラークと呼びます。プラークにより動脈が細くなると脳への血流が行きにくくなるほか、プラークが破綻すると脳梗塞などを引き起こす可能性があります。

超音波検査ではプラークの大きさ、形状、表面、内部エコーを観察します。

総頸動脈の画像

